



TITLE:

<批評・紹介> 石田幹之助著「歐米に於ける支那研究」

AUTHOR(S):

藤枝, 晃

CITATION:

藤枝, 晃. <批評・紹介> 石田幹之助著「歐米に於ける支那研究」. 東洋史研究 1942, 7(6): 427-429

ISSUE DATE:

1942-12-31

URL:

<https://doi.org/10.14989/138849>

RIGHT:

歐米に於ける支那研究 石田幹之助著

A5 判本文四八八頁 圖版四葉 地圖四葉
 昭和十七年六月創元社發行 價五圓五拾錢

この題名とこの著者とを結びつけて考へると、同じ著者が數年前に出された名著「歐人の支那研究」の再版若しくは増訂版が出たのかと考へたくなる人が多いのではないかと思ふが、今度の本は著者が最近數年間に色々な雑誌其の他に發表した論文の、標題のことに關係したものを輯めた論文集であつて、全體からいふと前著の續編に近いものであると言つたら、先づあたつてゐはしまいかと思ふ。

この本は文部省と出版文化協會との推薦圖書になつて居て、その長所は夫々の推薦理由に述べられてあり、また、説いて及ばざる所、改補を要する箇所については著者自身の親切な斷り書が各篇ごとについてゐるから、それ以上に言はねばならないことは殆んどない。だから、さういふ斷り書の一二を再録して紹介の辭としたい。

先づ本書の成立ちについては著者自身の「例言」の中に次の様に語られてある。

拙著「歐人の支那研究」(昭和七年刊)が絶版となつてゐるのであれを再版しないかと勸めらるゝ向きがあるが、あれは洵に未熟不備、全面的に書き改めなければ到底再び世に出すことは出来ぬ。また舊著には最近百年のことが缺けてゐるの

で續編を書かないかといふ勧めも受けたがこれ亦私などには容易に出来さうにもない。そこで多少ともその代用品として一時の間に合はせにはなるかと考へて巻頭の數篇を纏めて一卷とし、之に歐米の支那學者の略傳乃至業績に關するもの四種を加へ、稍々性質を異にするが序に最後の三篇を附録してかやうなものが出来上つたわけである。

右に述べられた本書の本體とも言ふべき「巻頭の數篇」の題名ととも載せられた雜誌とは次の通りである。

歐米に於ける支那研究 (アジア問題講座第十一冊、十四年)
歐米に於ける支那學關係の諸雜誌 (東亞昭和九年十・十一・

十二月號及び學鐙十三年七・八月號)

歐米に於ける漢籍の蒐集 (支那九年十月號)

支那に關する歐文文獻の書目に就いて (興亞十五年十月號)

歐米人の滿洲地理研究 (東亞四年十一・十二月五年二月號)

滿洲に關するロシアの名著 (東亞三年七・八月號)

一九一七—一九二六年サザート・ロシアに於ける極東並に中

亞の研究 (黑潮二年二月號)

我國に於ける西域史の研究 (歴史教育七年十一月特輯號)

右の内、巻頭の「歐米に於ける支那研究」は、本書全體の總論にあたり、且つその骨幹をなしてゐる。その内容は十六世紀の末のカトリク宣教師の支那研究より始まつて、歐米各國の支那學研究の現狀に及ぶ一篇の概説であつて、すなはち「歐人の支那研究」に於て扱はれなかつた近代支那學の成立してより後のことがこの主な對象となつてゐる。たゞ前者が古典時代より十九世紀の初頭までを扱つて二百五十餘頁を費したのに比べ

と、右の時代を八十五頁に説いた本篇は大いに簡略であり、且つ「人名書名等に原語を挿入してないので讀者には不便のことと思はれるが、以下の數篇と併せて見らるゝならば彼此相補うて幾分かこの闕漏を充たすことが出来る」といふ仕組みになつてゐる。前者でも人名地名は片假名であつたが、その巻末に附けられた「細目」によつて原綴を知りたい時に、また檢索の上にも大いに恩恵を蒙つたのであつた。今度の本だと原名を知りたいと思ふ場合の外に、彼此参照する場合も當然多いのであるから、何か簡単な索引がそれに類するものが是非欲しかつたと思ふ。

之に配する數篇は、強ひて之を分ければ初の三篇は全般的なもので、後の四篇は夫々特殊なものと見られよう。その内「歐米に於ける支那學關係の諸雜誌」は雜誌「東亞」に出て好評を博したもので、私などは仕事の關係上大いにその御厄介になつたものである。これに其の後「學鐙」に載せられたものが補はれ、また一二の追記があるけれども、大體外國の雜誌は昨年あたり停刊するか、停刊しなくとも輸入が止り、現在が一時期を劃してゐる様に思はれるから、その意味でその後數年間の狀況を加筆したものに於て頂きにかつたと思ふ。

これに續く支那學者の略傳乃至業績に關するもの四種とはシグンヌ、ラウファー、チャイルスの各小傳並びに著作目録と「スヴェン・ヘデインの業績」とである。「史學雜誌」その他に出たものもあるが、シグンヌのものとは東洋文庫の展覧書目に附載せられたもので手輕には見られないものである。目錄はいづれも「主要著述目錄」と題されてはあるが、なかなか念入

りに作られてある。

最後の附録の三篇の題名は「南海諸國に關する支那史料」、

「アラビア探險の回顧」、「支那地名談義」である。

燕雜ながら以上を以て紹介の辭とする。〔藤枝 晃〕